




スリーハート レポート

生活支援コーディネーターが
本宮の  を紹介します!

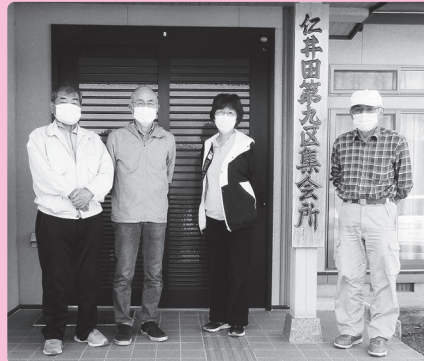


スリーハートレポートでは、地域で行われている さまざまな支え合い活動を紹介しています。

今回は、仁井田下ノ原団地内の『見守り協議体』です。“協議体”とは、支え合いを中心とした活動を住民主体で進めるため、みんなで話し合いより充実させていく組織のことを言います。“自分たちにできることを無理のない範囲でやっている”という、住民有志の方々の活動を紹介します。

地域の見守りのきっかけは…

仁井田下ノ原町内会は5班あり、各班に『見守り協議体』のメンバーが活動しています。



『見守り協議体』のメンバー

この日は、4人が集まりました。

本宮 裕之さん 古山 正儀さん
穴戸 次夫さん 鈴木 四女子さん

東日本大震災当時、町内会長だった穴戸さんは「この地区の指定避難所は仁井田公民館だが、一人暮らしや小さい子どもがいる世帯は、そこまで行けなかった。そのため集会所を団地内の避難所として開放した。

初日は22〜23人が集まって、ここで夜を明かしたんだ」と10年前を思い出そうに話されました。



「元気な顔を見に来たよ」と声をかけます

すぐに町内会役員で各世帯の安否確認を行ったところ、一人暮らし宅二軒で確認が取れず、隣近所で心配したそうです。結局は、離れて暮らす家族がすぐにかかけ、避難されていたことが後日分かりました。「そうした事情が分からなかったから、みんなで心配したんだ」と古山さん。

この時の苦い思いがあったため、今こそ向こう三軒両隣の精神が必要だと考えた古山さんが町内の知り合いにその思いを伝え、賛同を得たメンバーで『見守り協議体』が動きだしました。

『今の時代は個人情報も大事だけれど、何かあってからでは遅いんだ。せめて両隣の人は普段から声をかけ合えるようにして良い関係を築いておかないと』と、見守りの大切さを話してくれました。

困った時はお互いさま



散歩のついでに見守りをしています



今まで行った活動は、一人暮らし宅のガスコンロの交換設置作業や、自分の買い物のついでに欲しい物を買ってきてあげるなど、無理なく自分ができる支援をしています。

団地内の一人暮らしの方は、「みなさんが何気なく声をかけてくれるので本当に助かっている」と笑顔で話していました。

団地のみなさんは、良い距離感を保ちつつ、困った時はお互いさま、という気持ちがあるため、こうした活動につながったように思います。

この地区独自の支え合い・助け合い活動を行っている『見守り協議体』をこれからも応援していきます。

